

眺望

PROSPECTS

NTT西日本株式会社
熊本支店長 二宮 裕一郎



ICTの持続的な発展に向けて

「ICTを活用して、将来世代に誇れる社会の実現に貢献したい」

その思いを原点に、私はこれまでのキャリアの中で、防災、教育、観光など、社会や地域が抱えるさまざまな課題に向き合い、新しいサービスやソリューションの創出に取り組んできました。

21世紀に入り、ICTは飛躍的な進化を遂げ、人々の暮らしや仕事の在り方を大きく変えてきました。一方で、その急速な発展は新たな問題も生み出しています。インターネット上では、考えの近い人同士が集まり、異なる意見や価値観と距離を置く「集団分極化」が進み、社会の分断を助長しているとも指摘されています。ICTを社会基盤として提供する立場にある私たちは、その利便性だけでなく、こうした負の側面にも正面から向き合う責任があると考えています。

近年、特に注目されている問題が電力消費の増加です。データ量の爆発的な増大に伴い、世界中でコンピュータやデータセンターが急増し、エネルギー需要も拡大を続けています。生成AIの学習においては、原子力発電所1基が1時間に生み出す電力量に相当するエネルギーを消費するケースがあるとも言われており、ICTの発展と環境負荷低減の両立は避けて通れないテーマです。

こうした課題に対し、NTTグループでは次世代情報通信基盤である「IOWN（アイオン）」の開発・展開を進めています。光電融合技術を用いたオールフォトニクスネットワークにより、将来的には電力消費を100分の1に抑えることを目指しています。私は、これは単なる技術革新ではなく、ICTを持続可能な社会基盤へと進化させる挑戦だと捉えています。

さらに、大容量・低遅延という特性を生かし、データセンターの広域分散化が進めば、地方への立地や企業誘致、雇用創出にもつながります。熊本においても、こうした流れは地域経済の新たな可能性を広げるものになると考えています。

もう一つ、未来を見据えた情報通信基盤として注目されているのが宇宙分野です。宇宙空間でデータセンターを運用し、地上と連携させる構想は、地球環境への負荷低減という観点からも期待されており、2026年1月に開催された「ダボス会議」でも議論のテーマとなりました。

NTTグループは、一人ひとりが心豊かに暮らせるWell-beingな社会の実現を目指しています。私は熊本の現場に立つ支店長として、地域の課題と真摯に向き合いながら、これらの先端技術を最適に組み合わせ、次の世代に誇れる熊本、そして社会づくりに貢献していきたいと考えています。